

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

平塚市教育委員会

## 1 はじめに

令和4年4月に実施した「令和4年度全国学力・学習状況調査」の本市立学校の調査結果の概要をお知らせします。本市の調査結果及び課題等を公表することにより、児童生徒に関わる様々な立場の方々に関心を持っていただき、調査結果から見える成果や課題を共有しながら、学校・家庭・地域と連携し、一体となって平塚市の子どもたちを育てていきたいと考えております。

なお、本調査は、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部を測定したものであり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。この調査結果を本市の児童生徒の学力や学習状況を把握する資料の一つであると捉え、児童生徒一人一人に応じた教育指導や学習状況の改善のために役立てていきたいと考えております。

市民の皆さまにおかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨を御理解いただくとともに、本市の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効に御活用いただきますようお願いいたします。

## 2 調査の概要

### ○調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ・これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### ○調査実施日

令和4年4月19日（火）

### ○調査対象

小学校第6学年 中学校第3学年 原則として全児童生徒

### ○調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、次のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

<児童生徒に対する調査>

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

<学校に対する調査>

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### 3 教科に関する調査について

#### ◎教科別調査結果

<小学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	8.9 問 / 14 問	64%	9.0 問	3.4
算数	9.8 問 / 16 問	61%	10.0 問	3.7
理科	10.4 問 / 17 問	61%	11.0 問	3.9

<中学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	9.2 問 / 14 問	66%	10.0 問	3.1
数学	6.8 問 / 14 問	49%	7.0 問	3.6
理科	9.8 問 / 21 問	47%	10.0 問	4.1

<用語説明>

平均正答数：児童生徒の正答数の平均。（/の右側は総問題数）

平均正答率：児童生徒の平均正答数を百分率で表示。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。  
平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。  
標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。

#### ◎各教科の結果の概要

（ グラフ（レーダーチャート）は各教科の領域・観点・問題形式別に表したもの  
◇…多くの児童生徒ができている内容    ◆…課題が見られる内容 ）

#### 【小学校国語】

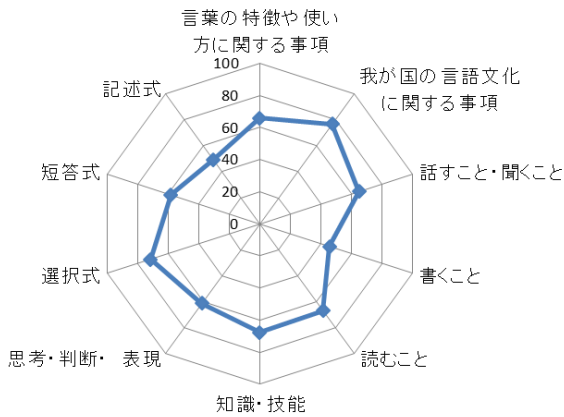
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

内容別に見ると、「読むこと」については、全国の正答率と同程度であり、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、全国の正答率をやや下回っている。特に「書くこと」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、「思考・判断・表現」については、全国の正答率と同程度であり、「知識・技能」については、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」については、全国の正答率と同程度であり、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っており、「短答式」については、全国の正答率を下回っている。特に「記述式」については、正答率が5割未満、「短答式」については、正答率が7割未満、且つ全国を5ポイント以上下回っており、課題があると考えられる。

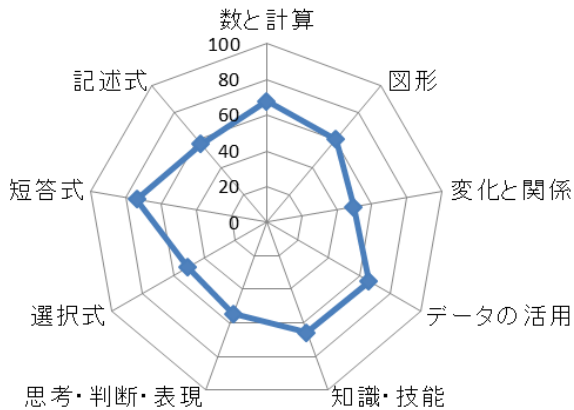
なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



- ◇話し言葉と書き言葉との違いを理解する。
- ◇必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える。
- ◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
- ◆互いの立場や意図を明確にしながらいかに計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。

### 【小学校算数】

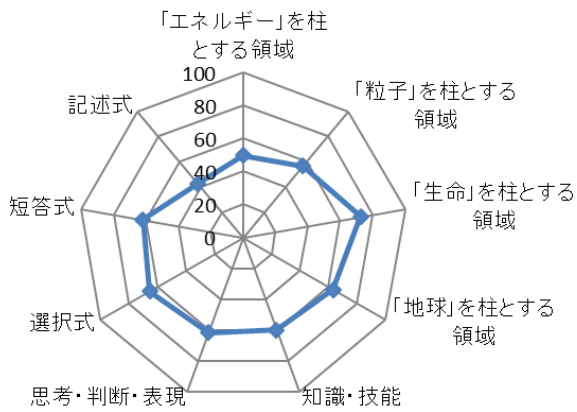
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。  
 領域別に見ると、全ての領域について、全国の正答率をやや下回っている。特に「変化と関係」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。  
 観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。  
 問題形式別に見ると、全ての形式について、全国の正答率をやや下回っている。  
 なお、無解答率については、全国と同程度である。



- ◇被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる。
- ◇図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している。
- ◆示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。
- ◆伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる。

### 【小学校理科】

今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。  
 区分・領域別に見ると、全ての領域別について、全国の正答率をやや下回っている。特に「『エネルギー』を柱とする領域」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。  
 観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。  
 問題形式別に見ると、全ての形式について、全国の正答率をやや下回っている。特に「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。  
 なお、無解答率については、全国と同程度である。



◇問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができる。

◇観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる。

◆日光は直進することを理解している。

◆実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。

### 【中学校国語】

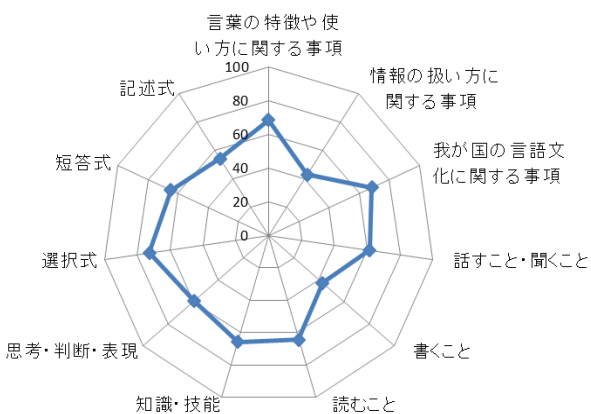
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

内容別に見ると、全ての内容について、全国の正答率をやや下回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」「記述式」については、全国の正答率をやや下回っており、「短答式」については、全国の正答率を下回っている。特に「短答式」については、正答率が7割未満、且つ全国を5ポイント以上下回っており、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



◇助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う。

◇事象や行為、心情を表す語句について理解する。

◇漢字の行書の読みやすい書き方について理解する。

◆文脈に即して漢字を正しく書く。

◆聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する。

### 【中学校数学】

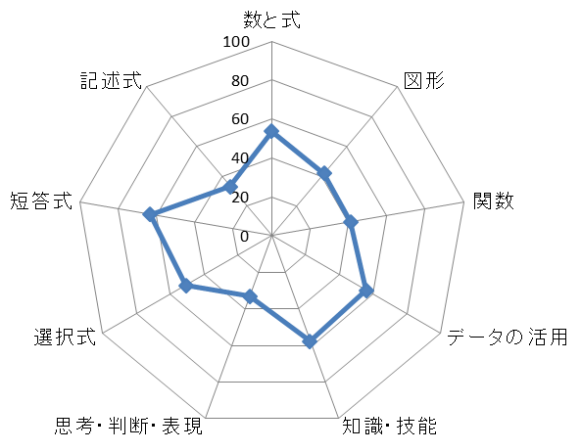
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

領域別に見ると、全ての領域について、全国の正答率をやや下回っている。特に「図形」「関数」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。特に「思考・判断・表現」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

問題形式別に見ると、全ての形式について、全国の正答率をやや下回っている。特に「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



◇多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。

◆筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

### 【中学校理科】

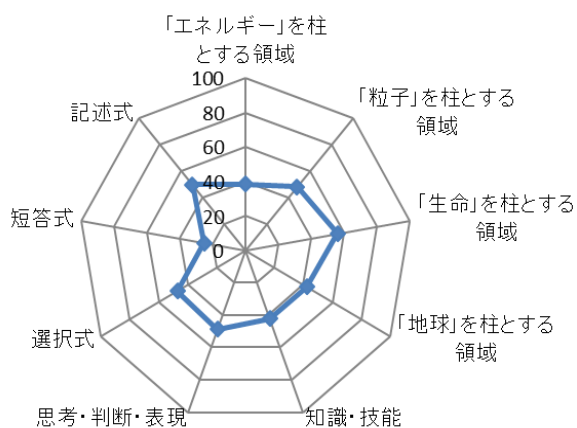
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。また、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

分野・領域別に見ると、全ての領域について、全国の正答率をやや下回っている。特に『『エネルギー』を柱とする領域』、『『粒子』を柱とする領域』、『『地球』を柱とする領域』については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。また、どちらの観点についても、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

問題形式別に見ると、「短答式」については、全国の正答率と同程度であり、「選択式」「記述式」については、全国の正答率をやや下回っている。また、全ての形式について、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



◇モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる

◇節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる

◆力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる。

◆化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できる。

#### 4 児童生徒質問紙調査について

##### <生活習慣や学習環境等に関する調査結果> (抜粋)

質 問 内 容	小学校		中学校	
	平塚市立	全国公立	平塚市立	全国公立
朝食を毎日食べている。	92.8%	94.4%	89.5%	91.9%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	87.6%	90.4%	89.9%	92.2%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	78.8%	81.5%	76.6%	79.9%
学校の授業時間以外の普段(月～金)、1日当たりの勉強時間が、2時間以上。	25.3%	25.1%	43.5%	35.2%
学校の授業時間以外の普段(月～金)、1日当たりの勉強時間が、30分未満。	20.5%	14.7%	16.9%	13.4%
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	70.6%	71.1%	54.6%	58.5%
学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたり10分以上、読書をする。	56.8%	59.6%	40.2%	48.6%
今住んでいる地域の行事に参加している。	47.8%	52.7%	38.9%	40.0%
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	78.5%	80.1%	74.1%	78.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.0%	96.8%	95.4%	96.4%
自分には、よいところがあると思う。	77.6%	79.3%	76.0%	78.5%
将来の夢や目標を持っている。	79.9%	79.8%	66.3%	67.3%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	94.0%	95.1%	93.6%	95.0%

※数値には、「どちらかといえば」「時々」を含む。

##### <教科に関する調査結果と質問紙調査結果の関係>

※児童生徒質問紙の質問の回答状況と各教科の調査結果を比べ、相関関係(2つの項目の間の何らかの関係性)が見られたものを抜粋。(必ずしも因果関係を示したものではない。)

◎次のように回答した児童生徒に、正答率が高い傾向が見られる。

##### 【基本的な生活習慣等】

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。

##### 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等】

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。

##### 【学習習慣、学習環境等】

- ・学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり勉強をする時間(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)が長い。
- ・読書が好き。

**【地域や社会に関わる活動の状況等】**

- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

**【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】**

- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた。
- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。
- ・学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

**【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】**

- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

**【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）】**

- ・国語の勉強は好きだ。
- ・国語の授業の内容はよく分かる。
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

**【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】**

- ・算数〔数学〕の勉強は好きだ。
- ・算数〔数学〕の勉強は大切だと思う。
- ・算数〔数学〕の授業の内容はよく分かる。
- ・算数〔数学〕の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている。
- ・算数〔数学〕の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている。
- ・算数〔数学〕の授業で問題を解くとき、持つと簡単に解く方法がないか考えている。
- ・算数〔数学〕の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。

**【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】**

- ・理科の勉強は好きだ。
- ・理科の勉強は大切だと思う。
- ・理科の授業の内容はよく分かる。
- ・理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている。
- ・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- ・理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。

※【 】は、「令和4年度全国学力・学習状況調査報告書（質問紙調査）」（令和4年8月文部科学省  
国立教育政策研究所）による分類

※〔 〕は、中学校の設問

## 5 今後に向けて

市教育委員会では、本市の児童生徒が確かな学力を身に付けていくため、本調査結果の分析と考察を行い、その結果を各学校に提供しました。各学校では、本市全体の結果分析を踏まえ、各学校の調査結果の多面的な分析と検証を行い、自校のよさや課題を踏まえた取組を学校全体で組織的・継続的に進めていくことが重要であると考えます。市教育委員会として、各学校が、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実を図ることができるよう、各学校の状況に応じ、必要な指導や支援を行ってまいります。

本調査は、知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという学習指導要領の趣旨を踏まえて、知識と活用を一体的に問うものになっています。

本市全体の調査結果を見ると、小中学校共に、どの教科も全国をやや下回る正答率になりました。

本調査からは、昨年度に引き続き、児童生徒が自分の考えを深め、話し合いの際には相手の意見を受け止めて自分の考えを広げるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動ができる児童生徒ほど、学力の定着との関わりが見られると考えられます。

児童生徒が、自ら課題意識を持って根気強く、仲間とともに学び合いながら主体的に学習に取り組めるように、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、授業改善を行うと同時に学習の過程や成果を評価していくことが必要だと考えます。

また、児童生徒に学習目標を提示し、児童生徒が、学習の見通しを持って学習したり、学習した内容を振り返る活動を計画的に取り入れたり、ある教科等で学習した内容を他の学習や日常生活に生かしたりするなどして学んだ実感を得られるようにすることも、学習内容の定着や学習意欲の向上に資するものと考えられます。

さらに、お互いを認め合える人間関係が築けるよう、児童生徒が安心して学べるような教育活動を各学校で進めていくことも大切だと考えます。

市教育委員会としては、これまでも学習指導要領の基本的な考え方とともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、評価の仕方等を含めた研修会を行ってきましたが、今後も各学校の教育活動が円滑に実施されるよう、管理職の研究会や各種担当者会において、必要な研修を行ってまいります。

児童生徒の確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むためには、学校と家庭・地域との連携が重要です。今後とも、市民の皆さまの学校教育・家庭教育への御理解と御支援・御協力をよろしくお願いいたします。